



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成
~~~~ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ~~~~

☆ 12月の目標

☆寒さに負けない  
心と体・・・  
※体力づくりをしよう  
※手洗い、うがいを  
しよう

☆配布物のお知らせ  
1 学校便り 36号  
☆保護者の会から  
1 ベル当番、安全パト  
ロール当番表配付

☆今後の主な予定  
・12月 3日 期末テスト  
入園募集受付  
・12月10日 面接練習  
・12月17日 2学期終業日

☆自分の名前の由来  
三年二組 野田 ゆい花

わたしの名前は、唯花と書きます。お母さんがつけました。「ゆいちゃん」というひびきがかわいいと思ったからだそうです。唯花は、たった一つの花という意味があり、自分らしさを大切にできる子に育ってほしいという願いがこめられています。  
わたしは、この名前が好きです。自分らしくいたいからです。

☆自分の名前の由来  
三年二組 吉富 かおり

わたしの名前は、ひらがなで書きます。ひらがなは、日本どくとくの文字です。ロスアンゼルスでうまれたわたしを日本の文化であるひらがなでやさしい子にと、かおりとつけられたそうです。

☆自分の名前の由来  
三年二組 鈴木 一貴

ぼくの名前は、がずたか漢字では一貴と書きます。ぼくのおじいちゃんの名前に「一」が入っているの、ぼくのおじいちゃんの名前には、「貴」が入っています。がずたか「一」になりました。きょうひん一つの大切なものという意味だと教えてくれました。  
ぼくの名前は、すごく大事だと思います。すごくいい名前だとぼくは思います。

☆さんかんの絵日記  
二年二組 まみや めい

音読はつびよう会するとき、オマサンくんがお休みだったので、先生が「だれかわりによんでくれる人」と、聞いたけど、だれも手をあげなかったの、わたしが手をあげました。がんばって二人分よみました。おかあさんにほめてもらってうれしかったです。

☆秋をかんじるもの  
二年二組 菊地 るか

日本にすむおじいちゃんの家には、かきの木があります。とても大きな木なので、おじいちゃんでも手がとどきません。おじいちゃんわたしは、竹のぼうの先にかきをひっかけてとっていました。かきをとるのは、大へんだけれど、とてもおいしいです。  
秋に一時帰国したら、お手伝いをして食べたいです。



☆秋をかんじるもの  
二年二組 かたおか かんた

ぼくが秋をかんじるものは、おちぼです。なぜかという、たぐさんのえのまわりにあるからです。いろがみどりから、黄色や赤にかわってきれいだからです。



☆しらせたいな 見せたいな  
一年一組 いずかわ しょうせい

もうせみはしんじやったけど、うちにはせみがいました。つかまえたら、せみはなきました。はなしたら、とびました。とびのは、はいです。せみはたかい木へいきます。うちにはせみが、いっほいました。いつもつかまえたらせみはこわがります。せみは、しんじやったけど、めげがらが、いっほあります。ぼくはせみが大きいです。



☆しらせたいな 見せたいな  
一年一組 ながや いちか

わたしは、アラスカクルースでラッコを見ました。アラスカのラッコは、かみがしらくて、しっぽがふとてながいです。めは、小さくてくろいです。ラッコはむねにかいがらをおいて、ちがうかいがらでわります。ラッコは、ながくてくろいひげがあります。からだは、ねずみいろです。けは、ふさふさです。あしはくろいです。ラッコは、いっほいてすごかったです。ラッコは、かわいかったです。ラッコは、また、アラスカクルースでラッコを見たいです。



☆しらせたいな 見せたいな  
一年一組 いしぐろ そうた

ぼくには、ゆうきというおととがいます。かみのけは、さうさうです。あしは、けっこうは、はいです。ゆうきは、やさしいたべません。ゆうきのすきな、おもちゃは、くるまです。めは、くろです。ゆうきは、ぼくのことです。めは、くろです。ゆうきは、ぼくもゆうきがすきです。ゆうきがうまれ、てくれてよかったです。ゆうきがすきです。

☆ **じゅぎょうさんかん日**  
**一年二組** **ホワイトマン** **三十**

じゅぎょうさんかんでは、くじらくもをよみました。みんなで「天までとどけ、一、二、三」とジャンプしました。おかあさんとおとうさんがみていたのできんちょうしました。



☆ **じゅぎょうさんかん日**  
**一年二組** **にしお けん**

一じかんめにきょうしつで、じゅぎょうさんかんがありました。いろいろとなひのおとうさんやおかあさんがきました。ほくは、きんちょうしました。どうしてかという、ほくはみんなのまえで、はっぴょうしないといけなかったからです。でも、はっぴょうをがんばりました。おとうさんとおかあさん「はっぴょうががんばったね」と、いってくれてうれしかったです。



☆ **じゅぎょうさんかん日**  
**一年二組** **中川 こたろう**

じゅぎょうさんかんに、かたちあそびをつくったものをみんなのまえで、はっぴょうしました。きんちょうせず、大きなこえで、はっぴょうできました。のでよかったです。



「この絵、私はこう見る」 **6年1組** **橋本 佳奈**

ザッ猿が木々の間を通り過ぎてゆく。木々がおいしげる森の中、猿たちが飛びはねるように進んでいく。いろんな色を使ったカラフルな絵。草を描くだけでも、深い緑や明るい緑。花もいろいろな色が使っていて、とてもきれいだ。白と黒だけでは出せないクオリティーがでている。そして、猿の顔がかんぺきに描かれていないため、小さな子どもが見ても怖がることはなく、だれが見てもよいと言える。花のおくに注目してみると、黒いヘビがいる。このヘビは何をしようとしているのだろう。絵を見た人の想像力が試される。この絵はアンリ・ルソーが1910年に描いた「猿のいる熱帯の森」だ。私はこの絵から、こんな物語を読み取る。森の中で、何匹かの猿が平和にくらしていた。ある日、草の中から黒い縄のような物が見えた。猿は不思議に思い、そっとその縄のようなものに近づいた。そこには一匹のヘビがいた。おどろいて固まっていると、おもいきりおそいかかり、かみついてきた。なので「これはまずいな。」と思って逃げていった、という物語だ。この絵を見た人は、猿が生き生きのびのびと平和にくらしている事を想像するだろう。

「この絵、私はこう見る」 **6年1組** **田原 侑来**

「ジー」と不思議なものを見るように、こちらを見つめている三匹の猿。その後ろの猿は、楽しそうに遊んでいる。たくさん木が一つひとつ細かに描かれていて、その木々の中に赤や白、オレンジなどのあざやかな色を入れることによって絵がより印象づけられている。猿も一匹一匹でいねいに描かれている。その中で、石に座っている猿は、まるでつかれてベンチに座っているおじいさんのようだ。これは、アンリ・ルソーの「猿のいる熱帯の森」という絵だ。この絵には、きっとこんな物語があるのだろう。ある日、三匹の茶色の猿たちが楽しく遊んでいた。一匹の猿がつかれて、石にすわって休けいしていたら、猿の見つめる方に何か不思議なものが現れる。その不思議なものにけいかいして、草にかくれている猿。気にもせず遊び続けている猿がいる。この絵を見た人は、たくさん疑問を持つのではないだろうか。例えば、猿の見つめている先には何があるだろう？ だとか、猿が持っているつりざおみたいなものは何だろう、など感じるだろう。また何度も見直したくなるだろう。猿の気持ちを、あざやかな色を使って行動に表すなど少し疑問に思うことも描かれていて、じーっと見たくするような絵だ。

「この絵、私はこう見る」 **6年1組** **秋本 登太**

ガサガサ。耳をすませば、ジャングルの鳥の鳴き声や、さる達の鳴き声、草をかき分ける音などが聞こえてきそう。おいしげったジャングルで、さる達がのびのびと過ごしている。葉や木々に緑が多く使われている。そして、その多い緑が少ない赤やオレンジ、白などの植物をより一層目立たせている。さる達もよく見ると、毛並みがとても繊細に描かれている。特に、真ん中にあるサルは、白と黒がうまく使い分けられていて、まるで本物のようだ。この絵は、フランス生まれの画家、アンリ・ルソーが描いた「猿のいる熱帯の森」という、1910年の絵だ。さる達は、いつからこの森にいるのだろう。最近来たばかりなのだろうか。それとも、長い間この森に住んでいるのだろうか。ただ、森にとっても馴染んでいるところから、長い間森に住んでいるのだろう。ひとまわり大きい事から、手前にいる白いさと黒いさは夫婦だろう。そして、奥で木にぶら下がって遊んでいるのは子さるだろう。とにかく、みんなのびのびと自由に過ごしていて、とても平和そう。しかし、平和なだけではない。よく見てみると、赤い植物の奥で、ヘビがじっとさるを見つめている。襲おうとしているのだろうか。じわじわと近づいて、襲うチャンスを待っているかのようだ。この絵を見た人は、平和だと思うだろう。しかしそれと同時に、ヘビがいつ襲ってくるのだろうか、という緊張感も与えられるだろう。作者は、森は平和だが、危険なことも存在する、そういうことを絵に表したかったのだろう。

「この絵、私はこう見る」 **6年1組** **降矢 望空**

「ビューーン。」木の枝に次々とぶらさがっているオレンジの二匹のさるを見よう。さるはまるで、ジェットコースターに乗っているような顔をしている。オレンジや黒や、少し赤っぽいオレンジなど、いろんな色のさるがいるね。また、花たちもそよそよと風で今にも動いて見えそう。この絵には緑が多いけれど、もっとよく見よう。いろんな緑があって、見ていてあきない。一番手前のさるがポーっとしているところがまた良い感じだ。花の色も絵の中でもきれいで、咲いている場所でも葉の形や枚数がばらばらできれいだね。これは、「猿のいる熱帯の森」という、1910年にアンリ・ルソーが描いた絵だ。この絵にはきっと、さるがいつばいいる自然の中ではどうやって生活するのか。また、温かい世界でさるたちが楽しく平和に生活する、こんな物語があるのだろう。これをみたら、自然のきれいさや平和で楽しいのが感じられると思う。

